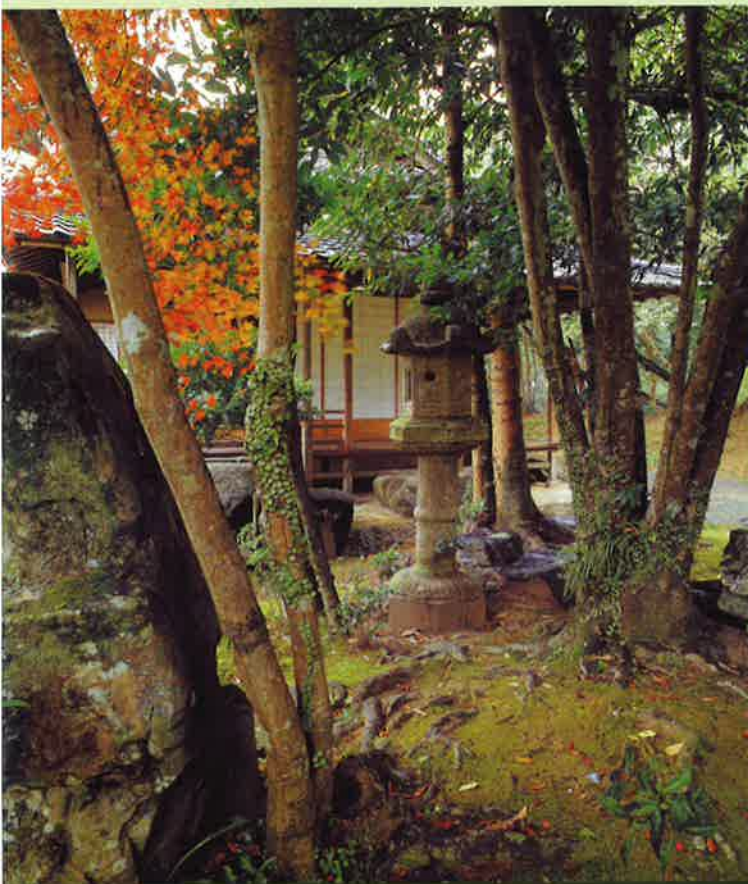




勝名指定国

# 天 教 園



公益財団法人 宇和島伊達文化保存会

# 天赦園の由来



本園は、二代藩主伊達宗利が寛文12年（1672）に海を埋め立て造成した「洪御殿」の南東部を、七代藩主伊達宗紀が退徳の場として大改造して造営した大名庭園で、文久3年に園内の建築等が整備され、宗紀が本園に移居し「南御殿」と称された後、慶応2年（1866）に竣工し「天赦園」と命名されました。

本園名の「天赦園」は、伊達政宗が退徳後群臣に示した述懐となる

「醉余口号」中の以下の詩から採って命名されました。

馬上に少年過ぎ 世は平にして白髪多し  
残軀は天の赦すところ 樂しまずして是を如何せん

本園は、宗紀が八代藩主宗城、九代宗徳の背後にあって真の実力者として国事を論じ、藩の国事斡旋の源を發したところで、宗紀は維新四賢公の一人と云われた宗城を後顧の憂いなく維新の大業に参加させました。

## 花菖蒲

本園の花菖蒲は、明治30年頃九代藩主伊達宗徳により、江戸の岡山・佐賀・熊本の前藩邸等から蒐集されたもので、主に江戸系約20種類の花菖蒲が植栽されています。5月下旬から6月上旬には見頃をおかえ、色とりどりに彩なす風景はひとしおの眺めです。



## 竹

七代藩主宗紀は伊達家家紋「竹に雀」にゆかりある竹を愛し、園内各所に竹・笹を配しました。本園には18種類の竹・笹が植栽されており、凜とした静けさの中の「和」の佇まいを感じさせます。

## 藤

藤原鎌足を祖に仰ぐ伊達家は、藤原氏のゆかりを偲び、園内に6基の藤棚が設けられています。4月には池上にかかる白玉藤「上り藤」や入口正面の樹齡250年以上の野田藤など紫や白の藤が咲き誇り、春麗の香を楽しめます。



白玉藤は4月上旬～中旬、他の藤は4月中旬～下旬に見頃を迎えます。







## 天赦園フォトギャラリー



春雨亭 はるさめてい

能書家でもあった宗紀は、この書屋で書道を研鑽し、多くの貴重な書を遺しました。宗紀は本園で穏やかに余生を過ごし、明治22年に百歳の天寿を全うしました。

## 様式

本園は11240㎡の面積を有する池泉廻遊式庭園であり、大名庭園として大規模な庭園です。池庭は全園の3分の1を占め、古木に囲まれ深山幽谷の趣を湛えています。

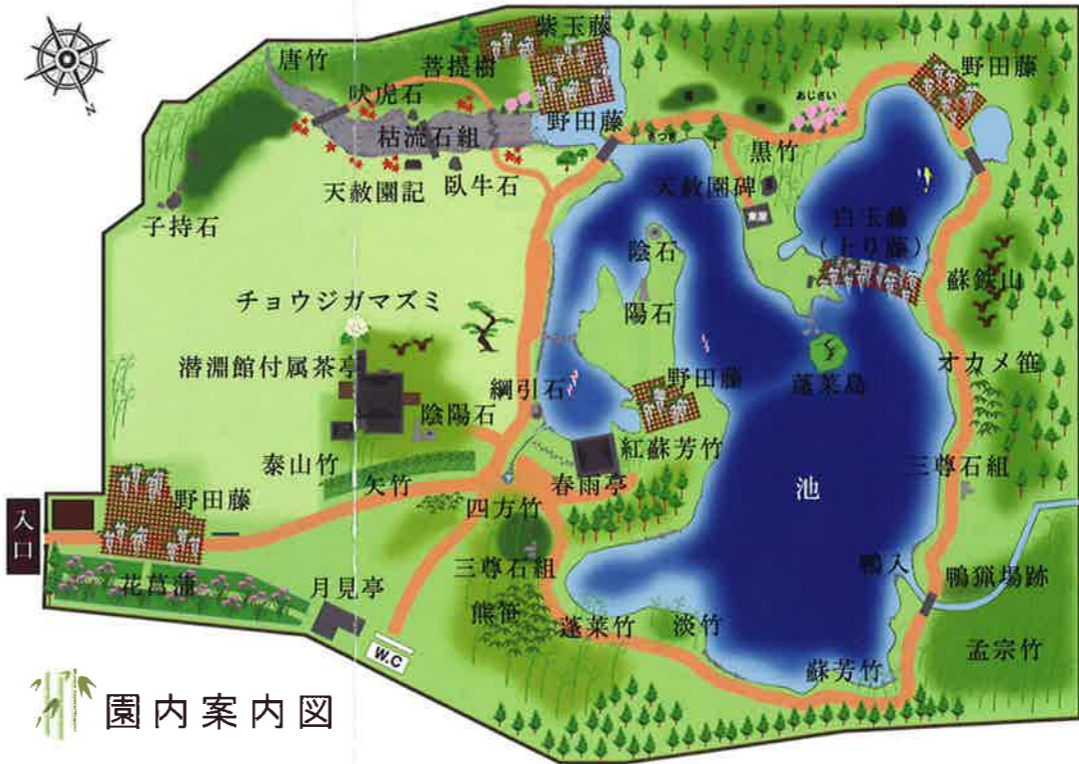
本園の池の造りや石組及び常緑樹で外部を遮断する構成等が作り出す独特の風致が高く評され、昭和43年に国から「名勝」の指定を受けました。

池護岸や東南部の石組には陰陽石の扱いが見受けられ、三尊石組、立石と平天石の組合せ等心を楽しませるものがあります。芝生の南部には枯滝石組と枯流石組があり、この枯流の中に二つの水分石が用いられ、両岸には臥牛石、起牛石、虎吠石等が座し、竹林を背景に静かな佇まいを見せています。



潜淵館付属茶亭 せんえんかんふぞくちゃてい

居館であった潜淵館の付属建物として建てられた書院式茶亭で、宗紀が茶道を楽しんだところです。本亭は、大正11年昭和天皇が皇太子の時、天赦園御成の際御座所にあてられました。(居館の潜淵館は明治29年に収去され、現存していません。)



園内案内図

## 天赦園に佇む景石



枯流石組み



虎吠石と水分石



子持石



園の中心にそびえ立つ陽石



雨に穿られ時を刻む和泉砂岩



烏帽子の形をした手水石



起牛石



立石と臥牛石



三尊石組

## 宇和島とあんず

日本一の「あんずの里」として有名な長野県千曲市ですが、宇和島藩二代藩主宗利の娘豊姫が松代藩真田家に嫁入る際、伊達家を懐かしむためにあんずの種を持たせたのが「あんずの里」の起源だと伝えられています。





## ■ 入 園 料

- 大 人：500円
- 高校生・高齢者（65歳以上）：300円
- 中学生：200円
- 小学生：100円
- 団 体（20名以上）：400円

## ■ 開 園 時 間 / 休 園 日

- 開園時間 / 8：30～16：30  
（4月～6月は17：30まで）
- 休園日 / 12月第2週～2月末 月曜日



## 名勝 天赦園

TEL: 0895-22-0056

〒798-0065 愛媛県宇和島市天赦公園

天赦園ブログ: [uwajima-date.sblo.jp](http://uwajima-date.sblo.jp)

管理者：公益財団法人宇和島伊達文化保存会

〒798-0061 愛媛県宇和島市御殿町9-9

TEL: 0895-25-2709 Fax: 0895-22-0034

HP: [wwwb.pikara.ne.jp/off-date/](http://wwwb.pikara.ne.jp/off-date/)